



バッハの森通信

第127号
2015年
4月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

新しい命で始まる春暦 文化遺産から平和を学ぶ

今年は春の来るのが遅いと感じました。おかしな話ですが、4月1日にバッハの森の南隣の児童公園の30数本の桜が例年通り一斉に咲いたのを見て、ほっとしました。

それ以上にほっとしたのは、平和のうちに新年度が始まったことです。中東とアフリカの国々が無政府状態に陥り、中東発のテロが、ヨーロッパを始め世界各地に波及して騒然としている国際情勢が、毎日伝えられるせいでしょう。桜の花を仰ぎながら、つくづく日本は平和な国だと思いました。

ですから、今、私たちには、世界のどの地域の人たちよりも、平和について「学ぶ」余裕があるはず。平和は、古来、人々が最も願い求めてきたことなので、その願いは数々の優れた文化遺産となって伝えられています。バッハの森の活動は、これらの文化遺産を学ぶ楽しさによって続けられてきました。ささやかな学びから、私たちはしばしば感動を経験します。それは、「平和」というテーマが、命を守るために人はどのように生きればいいのか、常に問いかけてくるからです。

* * *

例えば、普段は無意識に使用している暦は、重要な文化遺産です。現在は冬1月に始まる暦が一般に使用されていますが、本来は春に年が始まる「春暦」でした。春は自然界に新しい命が誕生する季節だからです。それが現在の1月に始まる太陽暦に代わったのは、古代ローマの皇帝、ユリウス・カエサルに始まります。ユリウス暦は、古代エジプトの影響下に、一年で昼が一番短い冬至の時期に年末、その直後、太陽が再び輝き始める時期に年始を定めました。

このように、太陽暦も、自然界の動きに合わせて年の始めを決める暦ですが、「春暦」とは自然との関わり方が違います。太陽暦は、日照時間の長短に応じて移り変わる季節を定める暦です。ローマのような大帝を支配するために必要な組織的な暦だったのです。これに対して、「春暦」は新しい命の誕生によって冬の死の世界から復活した自然に合わせて新しい年を始め、その年を通じて復活した命の成長を

見守る暦です。確かに、徐々に輝きを増す太陽を仰げば、新しい年を前向きに生きる元気が出るでしょう。しかし、生まれたばかりの新しい命の輝きには、はるかに強い感動があるのです。

16世紀末に、ローマ教皇グレゴリウス13世が、より厳密な天体観測によってユリウス暦を訂正し、それが、現在世界中で使用されている太陽暦のもとになりました。彼がユリウス暦の改訂を思い立った理由は、天体と地球の運行から一年を定めたとき生じる時間的誤差のために、復活祭の暦上の日付が季節と大きくずれ始めたためでした。カトリック教会という大組織を運営するための枠組みは、組織的に構成された太陽暦（グレゴリオ暦）でなければなりませんでしたが、そこに命を与えたのは、キリストが死から復活したことを祝う復活祭に始まる「春暦」だったのです。

* * *

バッハの森の暦は、教会暦に従ってバッハが作曲したカンタータの学びによって構成されています。教会暦は、太陽暦によって冬のクリスマスの季節に始まりますが、復活祭まではキリストの受難と死をテーマに、復活の準備をする期間とします。ところが春の復活祭からは、復活したキリストを起点とする暦、すなわち「春暦」になるのです。

復活祭に関するルターのコーラルとバッハのカンタータ (BWV 4) は、次のように歌い出します。

キリストは死の縄目につき、
私たちの罪のために渡された。
しかし彼は再びよみがえり、
私たちに命をもたらした。

一つの命を生かすためには、他の命の死が必要なのだという真理を語っています。この思想には、日本仏教に固有の「春のお彼岸」に通じるものがあります。「秋のお彼岸」は、野山が枯れ果てる秋が、親族の死を思い出させる自然な風習です。しかし、新しい命が誕生する春に死者を想う風習には、新しい命を生かすために、すなわち「平和」の実現のために死んだ命に感謝する、という特別な思いが籠められているのです。

バッハの森では、このように文化遺産に昔の人たちが考えたことを学び、感動を覚えながら歌っています。皆様のご参加をお待ちしております。

(石田友雄)

《バッハの森・創立 30 周年記念コンサート》

喜びの平和、サレムを目指す 「天の王」につき従って

*以下は去る 3 月 22 日に創立 30 周年記念コンサートで朗読したメディタツィオです。

これから、ヨーハン・ゼバスティアン・バッハが作曲したカンタータ “Himmelskönig, sei willkommen” 「天の王よ、歓迎いたします」(BWV 182) を演奏します。このカンタータは、今から約 300 年前、1714 年に、当時、バッハが宮廷楽長だったヴァイマルの宮廷教会で初演されました。この年、「棕櫚の日曜日」と「受胎告知祭」が重なったため、両方の記念日が指定されている特別なカンタータです。その後、バッハがカントルをつとめたライプツィヒの教会では、もっぱら「受胎告知祭」の礼拝で再演されました。このようなことが可能だった理由は「棕櫚の日曜日」と「受胎告知祭」のテーマが同一だからです。

「棕櫚の日曜日」は、復活祭の 1 週間前の日曜日で、子ろばに乗ってエルサレムに入って来たイエスを、群衆が棕櫚の枝を振り、衣服を道に敷いて歓迎した記念日です。ただし、この日に始まる受難週の金曜日にイエスは十字架につけられて処刑され、死んで葬られました。しかしその 3 日後の日曜日に復活して弟子たちに現われた、と新約聖書は伝えます。

他方、「受胎告知祭」は降誕祭、すなわち、クリスマスの 9 ヶ月前に、マリアが天使ガブリエルから、神の子を宿したことを告げられた日を記念して、3 月 25 日に設定された祭日です。

では、「棕櫚の日曜日」と「受胎告知祭」に共通するテーマとは何でしょうか。どちらも、神の子が支配者として天から来た、すなわち、「天の王」が地上にきた記念日なのです。

絶対権力者だった王

ここで、「天の王」という称号が何を表わしているのか考えてみましょう。私たちは、聖書が書かれた 2000 年から 3000 年前はもとより、バッハが活動していた 300 年前とも全く違う時代に生きています。普段、意識していませんが、社会を根底で支える制

度が違うのです。この違いをはっきり示すキーワードが「王」です。18 世紀末にフランス革命により王政が終わり、世界中が民主制に代わりだしてから 200 年以上たった現在、もう誰も絶対権力者だった王を覚えていません。しかし、王政は紀元前 4000 年にメソポタミアで歴史時代が始まって以来 18 世紀まで、安定した社会を支える基本的な制度でした。

このような社会で、王は国民の生活を守り、国民の間の争いごとを裁き、国民を外敵から護る 3 役を一人で兼任していました。すなわち、行政官、裁判官、軍事指導者として、王は国民に平和を与える務めを一人で背負っていたのです。従って、王は絶対権力者でした。当然、王権は軍事的、経済的に安定した土台の上にしか成り立ちませんが、それだけでは足りませんでした。その支配を国民に納得させる正統性が必要でした。そのため、王権は神から与えられた神聖な支配権だと説明されました。王権神授説です。それどころか、ときには王が神自身だと見なされました。

古代イスラエルで起こった王権批判

しかし、言うまでもなく王は人間でしたから、実際には、正義を守り、国民に平和を与え、国を繁栄に導く王だけではありませんでした。紀元前 9 世紀以来、古代イスラエルには、正義を守らず、国民を苦しめる王を厳しく批判し、遂には王国の滅亡を預言する人々が現われました。彼らの王権批判から、唯一の王は神であって人間ではない、という主張が起こるとともに、かつて神から王権を授けられたダビデ王の子孫から、理想の王が世の終わりに現われる、という希望も生まれました。メシア思想です。

メシアとは、本来、ダビデ家の王の称号でした。それがメシア思想により、「ダビデの子」という呼び名で、メシアを意味するようになりました。実際、聖書では、メシアはしばしば王として描かれます。例えば、「棕櫚の日曜日」の福音書は、子ろばに乗ってエルサレムに入って来たイエスについて、「見よ、お前の王がお前のところにおいてになる」と、語ります。同様に、天使ガブリエルは、受胎告知に際して、「あなたは男の子を生む。神は、彼にダビデの王座をくださる」とマリアに告げます。

しかし、現代人が思い描くメシアは王の姿を失い、すっかり宗教的な救い主になりました。現代人にとっ

て王は過去の遺物にすぎず、王政が神聖な制度だったことも忘れ去られてしまったからです。これでは、聖書が伝え、バッハが描くメシアの姿は霞んでしまいます。メシアを絶対権力者だった王の姿に重ねて、憐れみを乞い、讃美を捧げ、平和を願った人々の思いを理解しなければ、聖書やバッハのカンタータを正當に味わうことはできないでしょう。

天の王、イエス・キリスト

次の問題は「天の王」の「天」です。この場合、「天」は「神」の同義語です。マタイによる福音書が「天の王国」と言うところを、マルコによる福音書は「神の王国」と呼びます。ですから、このカンタータの最初の呼びかけ、“Himmelskönig”「天の王よ」は「神の王よ」と言い換えることができます。なお、厳密には「天の王国の王」、「神の王国の王」を意味しています。まさに神こそが唯一の王であると言いだしたヘブライの預言者たちの主張に沿った呼びかけです。

ところがここで新しい展開が起こります。「天の王」、乃至は「神の王」とメシアが合体し、「天の王」はそのまま「ダビデの子、メシア」、すなわち、イエス・キリストになるのです。これは、復活したイエスに出会った彼の直弟子たちが、ナザレのイエスはメシア＝キリストであり、キリストは神である、という信仰によって始めたキリスト教の教えに他なりません。この教えを、このカンタータは次のように語ります。

「天の王」は、子ロバに乗ってエルサレムにやってきました。これは、軍馬にまたがり、軍隊を引き連れて威風堂々と入城するこの世の王と対極の姿を示す象徴的な行動でした。暴力による支配を否定する「柔和な」王を歓迎した民衆は、彼に心を奪われ、自分たちの中に入ってくださいと願います。こうして、民衆の心と一つになった王は、暴力ではなく自分を犠牲にする愛によって支配します。このような「天の王」の愛を思うとき、民衆は喜びに溢れ、彼につき従って、喜びの（ヘブライ語で「平和」を意味する）「サレム」を目指そうと決心します。言うまでもなく、民衆が望む究極の目標は「平和」です。ですから、平和をもたらすリーダーとして、待ち望んでいた「天の王」を歓迎したのです。

平和を願う歌

この世の王の腐敗に絶望したヘブライの預言者た

ちは、神自身が王になって正義の支配を行なう世界を思い描きました。同時にダビデの子孫から理想の王、メシアが出現する夢も見ました。このような宗教思想を継承して、ナザレのイエスの教えと生き方に感動した直弟子たちが、イエスという人格において、「天の王」とメシアが合体したと信じ、キリスト教を始めました。その後、キリスト教会とその宗教文化は見事な発展を遂げ、その流れの中で生まれたバッハの音楽は、文化的グローバリズムが浸透した現代、人類共通の文化遺産になりました。

このように、間違いなくキリスト教文化は世界に大きな貢献を果たしてきました。しかし、他方、キリスト教徒のヨーロッパ人、後にはアメリカ人も加わって、彼らが世界の平和を著しくかき乱してきたことはまぎれもない事実です。中世の十字軍に始まり、アメリカ大陸の征服、アフリカ、アジアの帝国主義的植民地支配に至るまで、彼らはこの世の王となって世界を支配しました。自己犠牲の愛を実行したナザレのイエスをキリストとして礼拝する人々が、弱い諸民族を征服し殺戮し搾取してきた歴史を知ると、そのギャップに驚きます。

いずれにしても、20世紀前半に、自分たちの覇権闘争に世界中を巻き込んだ大戦を繰り返したあげく、より平等な世界を造らざるをえなくなり、国連を組織して新しい秩序の構築を目指してきましたが、平和の達成にはほど遠い現状です。それどころか、これまで犯してきた悪行のつけとして、新種のテロ集団が出現しました。この集団に対して、今のところ誰も対処法が見つからない有り様です。

今、私たちは、あちこちで紛争が続き、表面的に平和な地域でも、いつテロにあうかわからない不安な世界に住んでいます。このような世界に、誰が平和をもたらすことができるのでしょうか。ヘブライの預言者たち、イエスの直弟子たち、それにバッハなら、それは「天の王」だと言うのでしょうか。では具体的にはどうしたらいいのでしょうか。宗教団体でも政治団体でもないバッハの森は答えを持っていません。ただ「天の王」に向かって「ドナ・ノービス・パチェム（我らに平和を与えたまえ）」と歌い、学び、感動し、考えます。たとえ答えがすぐ見つからなくても、これは喜びに溢れ、元気になる楽しい活動です。皆様、どうぞご参加ください。（石田友雄）

創立 30 周年記念コンサート 「喜びの平和 (サレム)」 2015 年 3 月 22 日

平和な喜びに満ちた幸せ

「楽しかったですね」。コンサートが終わり、玄関で出会った友雄先生、恵さんと交わしたご挨拶の言葉です。バッハの森の門を叩いて 10 年、合唱に参加して 6 年になります。一子先生に「オルガンを弾くなら合唱にいらっしやい。オルガンが上手になるわよ」と勧められたのがきっかけでした。

今回、合唱が歌ったのは J. S. バッハのカンタータ「天の王よ、歓迎いたします」(BWV 182) の第 2 曲、第 7 曲、第 8 曲、それに M. プレトリウスの「神の小羊」でした。いずれもドイツ語の歌詞を繰り返し読み、その意味を考えました。

「天の王よ、歓迎いたします、私たちもあなたのシオンにして、お入りください」、「さあ、私たちは喜びのサレムへ行こう」と、一人で考えるには難解な歌詞が続きます。しかし友雄先生が聖書学研究者の視点から、バッハの音楽を解説してくださいます。古代イスラエルの歴史に始まり、ユダヤ教、キリスト教文化全般にわたる広い見識の上に立って語ってくださる解説は、本質の追究、真実の探求心に溢れ、圧倒されます。私たちの間で一番の長老ですが、一番情熱的です。

指揮者の恵さんからは、音楽の指導を受けます。今回はテノール、バスともに男声が充実していたので 4 声がそれぞれしっかり聞こえ、とても歌いやすく感じました。楽譜にはバッハの思いが其処かしこに散りばめられていて、その思いを理解するために、楽譜を謎解きのように読み込んでいくことも恵さんから教えていただきました。

今回のコンサートでは、嬉しいことに新たに 2 本のリコーダーが加わって、オルガン伴奏、合唱と共演してくださいました。辺保陽一さんと大塚照道さんが吹くリコーダーが、合唱と絡んだり離れたり、前に行ったり後ろからついて来たりと、楽しいものになりました。その音色はまるで薔薇の門を抜け、天の王国の牧場にいるようで、歌うのを忘れて聴き惚れてしまうほど、美しく感じました。若い鈴木由帆さんが弾く瑞々しくしっかりしたオルガン伴奏とテノールとバスの力強い支えに乗って、私たちソプラノとアルトは軽やかにのびのびと歌えました。

会衆斉唱と合唱に参加して歌いながら、人の声って素晴らしいとつくづく思いました。合唱を始めてオルガンが上達したかどうか、自分では分かりませんが、一人で弾くオルガンとは違う楽しさを感じていることは間違いありません。一子先生の罨にまんまと引っ掛かったようです。今回も、一人一人の声が合わさって奏楽堂いっぱい広がったとき、声に包まれて「ああ生きている、生かされている」と感じ、平和な喜びに満ちた幸せな気持ちになることができました。次回はとても美しいカンタータだと聞いて

います。どんなコンサートになるか、どんな合唱ができるか、今から心待ちにしています。(安西文子)

蒼穹に溶け込んでいく響き

バッハの森創立 30 周年記念コンサートに、クワイア・メンバーとして参加して、印象に残っていることは何だろう。一生懸命に練習したカンタータについての印象は散漫だ。なぜだろうか。今でも時折勝手に曲が耳の中で鳴り出すくらい、自分としては取り組んだつもりだったが、本番では余り上手く歌えなかったからかもしれない。音符を追いかけるのに夢中で、言葉の意味を十分理解できていなかったためかもしれない。

バッハの森クワイアのメンバーは、長く続けている人が多い。自分は昨年 9 月から参加したばかりだ。しかも、12 月のクリスマス・コンサートは、別の団体の本番と重なり、参加できなかった。言葉の意味が自然に体得できるようになるには、時間が必要なかもしれない。

しかし 4 月～6 月の初夏のシーズンは仕事が忙しくなりそうで、練習にどのくらい参加できるか分からない。でも、バッハの森の奏楽堂で歌う嬉しさと感動は何ごとにも代えがたい。ここでは、みんなのそろう響きが、天井の蒼穹に溶け込んでいくのを実感できる。自分はキリスト者ではないが、音楽を通じて神に奉仕している、神に近づいている、と思えるような瞬間でもある。とても贅沢な空間での 2 時間半の練習は、いつもあつという間に過ぎる。

メインのカンタータの印象が、自分にとって不十分だったからといって、残念なコンサートだったのかというと、いや違う。特に二つ、とても心に残ったことがあった。

一つ目は、コンサートの初めと終わりに鳴らされるハンドベルの点鐘。ヨーロッパの教会を思わせる鐘の応酬と乱打。小さなハンドベルでも集まると、こんなことが出来るのか、こんな音が出せるのかという驚き。とても短い時間の間に、心がかき乱され、魂がえぐり取られ、赤裸々にされる思い。遠い日を訳もなく思い出し、不思議な感興にかられる。

二つ目は、友雄先生の「天の王」に関するメディアタツィオ(解説)。

シオンの娘に告げよ、
見よ、あなたの王がおいでになる。
柔和な方でろばに乗って。

(マタイによる福音書 21 章より)

以前も先生から「王」に関する講義をうかがっていたが、今回、初めてその意味が少し分かりかけた気がした。以下は、独りよがりの考えだが、「王」とは何かに答えることは、国とは何か、社会とは何か、自分とは何か、これらの問いに答えることと同一だ。一生かかって考える、重い問いである。

次のコンサートでも同じような感動を味わうことができるだろうか。期待している。

最後に、一緒にコンサートをした、友雄先生、ク

ワイア指導の恵さん、リコーダーの辺保さんと大塚さん、オルガンの鈴木さん、クワイアの仲間に感謝いたします。(榎原隆)

素敵な余韻、広がる視野と興味

所用があったため、バッハの森に到着したときには、コンサートはすでに始まっていました。バッハの森のコンサートは、バッハのカンタータが本来演奏された状況をコンサート形式で再現するため、ミサの音楽部分を枠として、徐々にテーマを示した後でカンタータを演奏します。その中には、会衆斉唱という形で聴衆が参加して歌う「コラル」があります。丁度、それが終わった後だったので一寸淋しい気持ちでしたが、友雄先生の「メディタツィオ」が始まると、すぐ気持ちを切り替えて聴き入ることができました。

カンタータ「天の王よ、歓迎いたします」(BWV 182)は、復活祭1週間前の「棕櫚の日曜日」と3月25日に定められている「受胎告知祭」両方の祭日のために作曲されました。その年、たまたま両祭日が重なっていたためだけではなく、神の子が「天の王」として地上に来たという、両祭日に共通するテーマがあるためです、と先ず説明があり、新しい知識をまた一つ得ることができて嬉しくなりました。

バッハの森のコンサートの友雄先生のお話しは、教会音楽を理解するために欠かせないものです。特に各主日や祭日のために作曲されたカンタータについて、その日に読まれる福音書をバッハがどのように理解して作曲したか、かいつまんで説明してください。確かにバッハの音楽の素晴らしさは、ただ聴いただけでも感じるすることができますが、筋が分からないまま聴いていると、だんだん疲れてくるような音楽です。以前の私はそうでした。しかし、バッハの森で友雄先生のお話しをうかがうようになってから、終わりまで楽しんで聴くことができるようになりました。

この日の演奏は、合唱の伴奏に、オルガンの他にリコーダー2本が加わったことで、非常に立体的で多層構造の厚みがある音楽になったと感じました。鈴木由帆さんのオルガンは、音がはっきりと聴こえ、しかも優しい温かい音でした。オルガン・ロフトで演奏された辺保さんと大塚さんのリコーダーは、視覚的にも聴覚的にも、音がまるで天から降ってくるようでした。比留間恵さんの指揮により、合唱がリコーダー、オルガンと一つになり、壮大な素晴らしい音楽、まさに「天の王」を歓迎する者たちの喜びの溢れる音楽になりました。バッハの演奏を聴いた当時の人たちも、このような感動を味わっていたのではないかと想像しました。

コンサートが終わったときには、プログラムの扉のタイトル、「喜びの平和」の中にあるような感じがして、しばらくの間、素敵な余韻に浸ることができました。

今日のお話しをうかがいながら、思い出したこと

があります。10年以上前ですが、イタリアに旅行したとき、フィレンツェで棕櫚の日曜日になり、サンタ・クロチェ教会に行ってみると、皆に木の枝を配っていました。棕櫚ではなく、オリーブだったと思います。去年はローマに旅行しましたが、12月8日が「無原罪の聖母マリアの祭日」でイタリアの国の祭日でした。聖母マリアの母がマリアを受胎した日の記念日です。教会で特別なミサがあるというのでサンタ・マリア・マッジョーレ教会に行き、初めてミサに参列してみたのですが、ラテン語のミサが、通常文と固有文から構成されていることを、友雄先生から聞いていたおかげで、キリエからアニュス・デイまで、辛うじて三分の一ぐらい分かりました。

信徒の皆さんにとっては、ミサは神から祝福を受ける大きな喜びだったようです。カトリックなので、カンタータこそ演奏されず、コラルの会衆斉唱もありませんでした。朗誦、合唱、オルガン、トランペットなどにより、音楽がミサの重要な役割を果たしていることがよく分かりました。

この経験は一例で、私はバッハの森のお陰で、教会音楽への目が開かれました。それは、宗教音楽だけではなく、教会建築や宗教美術など、一般にヨーロッパ文化とみなされているもの、更には聖書時代の歴史、ヘブライ語、私の趣味である宝石学にまで、視野と興味と理解を広げてくれています。私自身は初歩者にすぎませんが、バッハの森にうかがうようになってから、自分の生活が遙かに色彩豊かになったことは事実です。最近は、いろいろな都合から毎週開かれている講座に出席できませんが、コンサートのときの友雄先生のお話しを楽しみにしています。(松村治美)

寄付者芳名 (敬称略日付順) (2015.1.1～3.31)

下記の方々から計104,200円のご寄付をいただきました。
松村治美、比留間恵、中村東子、石田友雄。

建物維持積立寄付 (2015.1.1～3.31)

下記の方々から計183,000円のご寄付をいただきました。
海東俊恵、宮地陽子、小関利起也・旦子、小板橋又久、清水良子、前川正子、柴川幸子、深谷律雄、木田みな子、平賀啓二郎・邦子、住田真理子、松下雅弘、鳥飼真紀子、畠中和華、谷井澄子、角井良子、内藤節子、塚越多恵子、今野和子、鴨川華子、酒巻真粧子、田中秀明、松岡智子、坂口節子、田中明彦・とみ子、秋山万友美、中山佳奈恵、浪川幸彦、渡辺恵子、榎本敬子、山口みどり、西澤節子、堀内順子、関佑子、横田穰一・博子、三縄肇・啓子。

土地地上権積立寄付 (2015.1.1～3.31)

下記の方から計2,000円のご寄付をいただきました。
鳥飼真紀子。

オルガン修復積立寄付 (2015.1.1～3.31)

下記の方から計4,000円のご寄付をいただきました。
海東俊恵、村上晴美、鳥飼真紀子。

日誌 (2015. 1. 1 ~ 3. 31)

1. 8 春のシーズン開始
1. 8, 15, 22, 29 運営委員会 参加者各 4 名。
1. 25 宮本オルガン教室セミナー 参加者 10 名。
2. 5, 12, 19, 26 運営委員会 参加者各 4 名。
2. 14 来訪 戸田薫氏、エレラ・ポール氏夫妻 (ヴァイオリニスト)。
3. 5, 12, 19, 26 運営委員会 参加者 4, 3, 4, 4 名。
3. 20 オルガン調律 参加者 2 名。
3. 21 一般財団法人バッハの森役員会 参加者 9 名。
3. 22 創立 30 周年記念コンサート 参加者 49 名。
3. 29 家族で楽しむ音楽のワークショップ 参加者 13 名。
家族で楽しむ春休みの音楽会 参加者 22 名。
3. 30 ~ 4. 9 春期休館

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ (JSB)

1. 10 顕現祭のカンタータ「最愛のインマヌエルよ、信仰者の君公よ」(BWV 123) ; コラール「インマヌエルよ、わが君よ」。オルガン: J. S. バッハ「それ故、さあ立ち去れ、お前たち空しいものよ」(BWV 123 / 6)、當眞容子。参加者 12 名。
1. 17 第 381 回、オルガン: 鈴木由帆「最愛のインマヌエルよ」、鈴木由帆。参加者 11 名。
1. 24 顕現祭後第 2 主日のカンタータ「私の神よ、いつまで、ああ、いつまでですか」(BWV 155) ; コラール「われらに來たれる救いは恵み」。オルガン: J. S. バッハ「たとえ神がのぞんでおられないような気配がしても」(BWV 155 / 5)、笠間きよ子。参加者 12 名。
1. 31 第 382 回、オルガン: J. S. バッハ「救いは私たちにあちらから來た」(BWV 638)、笠間きよ子。参加者 14 名。
2. 7 顕現祭後第 4 主日のカンタータ「イエスが眠っておられる、私は何を望むべきか」(BWV 81) ; コラール「主よ、喜び」。オルガン: J. S. バッハ「あなたの庇護の下」(BWV 81 / 7)、安西文子。参加者 15 名。
2. 14 第 383 回、オルガン: J. S. バッハ「イエスよ、私の喜びよ」(BWV 610)、安西文子。参加者 8 名。
2. 21 六旬節のカンタータ「私たちを維持してください、あなたの御言葉の許に」(BWV 126) ; コラール「御言葉の許に」。オルガン: J. S. バッハ「授けてください、御恵みにより私たちに平和を」(BWV 126 / 6)、金谷尚美。参加者 13 名。
2. 28 第 384 回、オルガン: D. ブクステフーデ「私たちを維持してください、主よ、あなたの御言葉の許に」、金谷尚美。参加者 13 名。
3. 7 エストミヒのカンタータ「あなた、真の神にしてダビデの子よ」(BWV 23) ; コラール「神の小羊」。オルガン: M. プレトリウス「キリストよ、あなた、神の小羊よ」、海東俊恵。参加者 14 名。
3. 14 第 385 回、オルガン: J. S. バッハ「キリストよ、あなた、神の小羊よ」(BWV 619)、海東俊恵。参加者 14 名。

学習コース

バッハの森・クワイア (混声合唱) 1.10 / 12 名、1.17 / 16 名、1.24 / 14 名、1.31 / 15 名、2.7 / 17 名、2.14 / 16 名、2.21 / 17 名、2.28 / 18 名、3.7 / 19 名、3.14 / 20 名、3.21 / 19 名 (ゲネプロ)。

バッハの森・バロック・アンサンブル 1.31 / 3 名、1.7 / 4 名、2.21 / 4 名、3.7 / 4 名、3.14 / 4 名。

バッハの森・ハンドベル・クワイア 1.10 / 3 名、1.17 / 3 名、1.24 / 4 名、1.31 / 3 名、2.7 / 3 名、2.28 / 3 名、3.7 / 2 名、3.14 / 2 名。

通奏低音研究会 1.10 / 6 名、2.14 / 6 名、3.7 / 6 名。

オルガン音楽研究会 1.9 / 7 名、1.23 / 7 名、2.6 / 9 名、2.27 / 10 名、3.6 / 10 名。

コラール研究会 1.9 / 7 名、1.23 / 6 名、2.6 / 7 名、2.20 / 6 名、3.6 / 10 名。

クラヴィコード・オルガン教室 1.9 / 3 名、2.6 / 3 名、2.27 / 2 名、3.6 / 4 名。

オルガン・クラブ 1.16 / 3 名、1.30 / 3 名、2.13 / 3 名、2.20 / 2 名、3.13 / 3 名。

読書会: 聖書 1.10 / 6 名、1.17 / 6 名、1.24 / 6 名、1.31 / 7 名、2.7 / 10 名、2.14 / 6 名、2.21 / 8 名、2.28 / 9 名、3.7 / 7 名、3.14 / 8 名。

オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習 1.5 / 1 名、1.6 / 1 名、1.7 / 1 名、1.8 / 2 名、1.9 / 1 名、1.10 / 1 名、1.13 / 3 名、1.14 / 1 名、1.15 / 2 名、1.16 / 3 名、1.17 / 1 名、1.20 / 3 名、1.21 / 2 名、1.22 / 3 名、1.23 / 2 名、1.24 / 3 名、1.27 / 3 名、1.28 / 1 名、1.29 / 2 名、1.30 / 2 名、1.31 / 2 名、2.2 / 2 名、2.3 / 2 名、2.4 / 4 名、2.5 / 2 名、2.6 / 2 名、2.7 / 3 名、2.10 / 4 名、2.12 / 4 名、2.13 / 1 名、2.14 / 1 名、2.17 / 1 名、2.18 / 1 名、2.19 / 1 名、2.20 / 1 名、2.21 / 1 名、2.24 / 2 名、2.25 / 2 名、2.26 / 2 名、2.28 / 3 名、3.3 / 2 名、3.4 / 2 名、3.5 / 2 名、3.6 / 1 名、3.7 / 2 名、3.10 / 3 名、3.11 / 2 名、3.13 / 2 名、3.14 / 3 名、3.17 / 2 名、3.18 / 1 名、3.19 / 2 名、3.20 / 3 名、3.21 / 1 名、3.24 / 2 名、3.25 / 1 名、3.26 / 4 名、3.27 / 4 名、3.28 / 1 名、3.31 / 1 名。